

コミュニティで備え、支える防災

～避難所から「被災者支援拠点」へ～



ソーシャル・イノベーション推進チーム 上席チームリーダー
青柳 光昌

1. 私たちの問題意識①

大規模災害時、避難所やその周辺地域での災害関連死や状況悪化者を最小限にとどめたい。

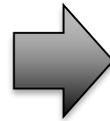
1. 私たちの問題意識②

これまで

・避難訓練

・見えるニーズへの対応

・点でのニーズ把握
(避難所だけを見ている)



これから

・避難生活訓練

・見えにくいニーズ
(要配慮者)への対応

・面でのニーズ把握
(被災地域全体を見る)

地域(面)で備えなければ、
多様なニーズへは対応できない

2. 避難所から「被災者支援拠点」へ

- 多様な被災者に配慮のある避難所の確立と普及を通じて、これまでの避難所を「被災者支援拠点」(＝地域の被災者全体のための支援をつなぐ拠点)として機能させる。
- 地域住民、自治体、支援組織がそれぞれの強みをつなぎ、広域連携のための具体的なしくみづくり・人材育成を実践し、次の災害への備えをめざす。

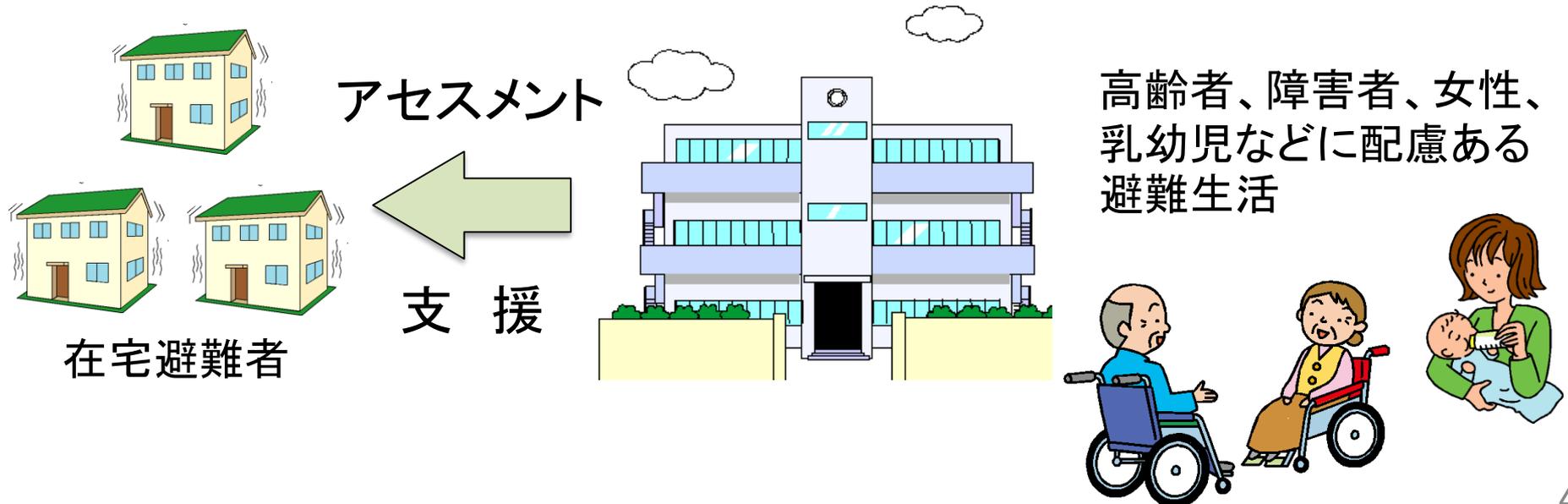
3. 具体的な取組内容

1. 被災者支援拠点運営管理者：被災者支援拠点の運営サポートを行う
2. 災害時エリアマネージャー：広域レベルで支援活動を展開する

避難所



「被災者支援拠点」



4. 事例紹介① 広島土砂災害



4. 事例紹介② 熊本地震

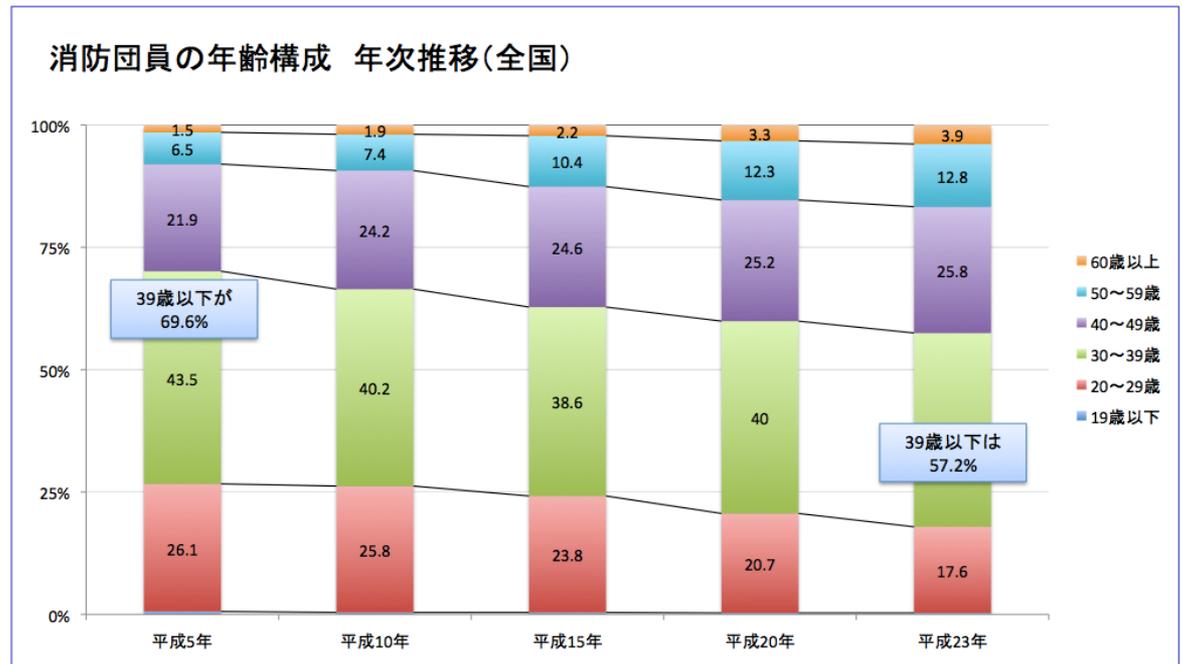


5. 研修プログラム①

- 1.過去の教訓と災害想定から学びます
- 2.現場の支援者から教訓を学びます
- 3.今後の人口動態や社会構造の変化をデータを元に予測し、災害時対応を検討します

3)人口変動を見据えた災害時対応の必要性

・消防団員はまもなく「半数以上が40歳以上」に！



総務省消防庁データより

5. 研修プログラム②

4. 数多くの演習や図上訓練を通じ、理解を深めます
5. 研修先に合わせた地域のケーススタディを行い、地域を理解します
6. 研修後の訓練では、発災直後の避難所生活を体験します



5. 研修プログラム③

7. 一人一人が役割を熱演することで、管理者や要援護者の視点を理解します
8. 避難所の夜を体験。時間とともに刻々と状況が変化します。
9. 次々と起こる想定外のアクシデントへどのように対処するのかが問われます



5. 研修プログラム④

10. 平時からの顔の見える関係づくりが進みます



6. まとめ

- ・地域(面)で備えなければ、多様なニーズへの対応はできない
- ・そのためには、個別事象(点)を事前に想定して、全体でのニーズを予測できる手法を学ぶこと。
- ・それらの学びを地域住民、行政、支援組織とともに行うことで、「コミュニティ」が形成されて、セーフティネットになってゆく。